

荒川区民総幸福度（GAH）レポート

～GAH指標を用いた区民アンケート調査結果の分析～



公益財団法人荒川区自治総合研究所では、この度、荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査の分析結果をまとめた「GAH レポート」を発刊することとしました。

創刊号にあたる今号では、荒川区が平成 25 年と 26 年に行った 2 回の区民アンケート調査から、区民の皆様の幸福実感の現状と、その幸福実感をさらに高めていくために区が行う平成 27 年度予算の主要事業をご紹介します。

目 次

はじめに.....	1
1 荒川区民総幸福度（GAH）の取り組み	1
2 区民アンケート調査の実施と分析レポートの発刊について.....	1
3 GAH指標	1
I 区民アンケート調査結果の概要―荒川区民の幸福実感―	4
1 全体の幸福実感.....	5
2 性別・年代別 幸福実感	6
3 区内居住年数別 幸福実感.....	7
4 居住形態別 幸福実感	7
5 家族構成別 幸福実感	8
コラム 笑顔と長寿の関係	9
II 各分野における GAH 指標の平均実感度	10
1 健康・福祉	10
2 子育て・教育.....	10
3 産業.....	11
4 環境.....	11
5 文化.....	12
6 安全・安心	12
III 更なる幸福実感向上のために	13
1 地域のちから.....	13
2 区の取り組み.....	14
区民アンケート調査 各図表の有効回答者数一覧.....	16

はじめに

1 荒川区民総幸福度（GAH）の取り組み

荒川区では、「区政は区民を幸せにするシステムである」というドメイン（事業領域）のもと「幸福実感都市あらかわ」の実現を目指して、全国に先駆けて荒川区民総幸福度（Gross Arakawa Happiness：GAH）に取り組んでいます。荒川区民総幸福度（GAH）は、区民の皆様の幸福度を測る指標を作成し、それを測定、分析することで、区民の皆様の幸福の実感が向上するような、より良い区政運営につなげていくものです。

何を「幸せ」と感じるかは人それぞれです。皆様の不幸や不安を減らし、幸せを増やすことに区政が少しでも貢献していくために、まずは皆様がどれだけ幸せを感じているかを調べ、不幸や不安を感じる点があれば、どのようなところでそう感じるのかを把握することが必要です。そうすることで幸福実感上の課題の解決に向けた方法を検討することができます。

荒川区自治総合研究所では、多様な分野の有識者の視点も踏まえ、区民の皆様の生活に最も近いところでそのニーズ（要望）を把握している区職員とともに GAH 指標を作成しました。

2 区民アンケート調査の実施と分析レポートの発刊について

区では、平成 25 年 10 月にこの指標を用いて第 1 回目の「荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査」（以下「区民アンケート調査」とします。）を実施し、平成 26 年 7 月には、2 回目の調査を実施しました。区民アンケート調査では、GAH 指標に対する実感のほか、重要だと思う指標や回答者の属性等について尋ねるとともに、自由記述の欄も設けました。これらの区民アンケート調査の調査票や集計結果は、荒川区ホームページで公表されています¹。

荒川区自治総合研究所では、区民アンケート調査の結果をもとに、区民の皆様がどのような部分に幸せや不安を感じているかを分析し、その分析結果を区民の皆様や事業者の方々など、地域の皆様と広く共有していきたいと考えています。

第 1 回目となる今回の分析レポートでは、GAH 指標についての簡単な解説とともに、これまでの 2 回の区民アンケート調査結果の概要をご紹介します。

3 GAH 指標

荒川区民総幸福度（GAH）指標は、2 ページの図表 1 のとおり、46 の項目からなっています²。指標は、「健康・福祉」「子育て・教育」「産業」「環境」「文化」「安全・安心」の 6 つの分野ごとに、1 つの上位指標と 6～8 個の下位指標があり、これらを総合する指標として、「幸福実感」指標があります。

区民アンケート調査では、3 ページの図表 2 のとおり、それぞれの指標についての実感を 1（まったく感じない）から 5（大いに感じる）までの 5 段階でお答えいただきました。

¹ 荒川区ホームページ <http://www.city.arakawa.tokyo.jp/> からご覧いただけます。

² 46 の指標は現時点における項目です。今後も調査を重ね、これらの項目が区民の皆さんの幸福実感を適切に把握できる指標となっているかどうか検証していきます。

図表 1 荒川区民総幸福度（GAH）指標の体系

荒川区民総幸福度（GAH）指標	幸福実感	分野	※上位指標	※下位指標	
		健康・福祉	健康の実感	体の健康	運動の実施
					健康的な食生活
					体の休息
				心の健康	つながり★※
					自分の役割
					心の安らぎ
		子育て・教育 ³	子どもの成長の実感	健康環境	医療の充実
					福祉の充実
				「生きる力」	規則正しい生活習慣
					「生きる力」の習得
				家族関係	親子コミュニケーション
					家族の理解・協力
		産業	生活のゆとり	子育て教育環境	子育て・教育環境の充実
					地域の子育てへの理解・協力
					望む子育てができる環境の充実
				仕事	生活の安定★
					ワーク・ライフ・バランス
					仕事のやりがい
		環境	生活環境の充実	地域経済	まちの産業
					買い物の利便性
					まちの魅力
				利便性・ユニバーサルデザイン	施設のバリアフリー
					心のバリアフリー
					交通利便性
		文化	充実した余暇・文化活動、地域の人とのふれあいの実感	快適性	まちなみの良さ
					周辺環境の快適さ★
				持続可能性	持続可能性
				余暇活動	興味・関心事への取組
					生涯学習環境の充実
		安全・安心	安全・安心の実感	地域文化	地域への愛着
					地域の人との交流の充実
					地域に頼れる人がいる実感
				犯罪	文化的寛容性
					防犯性★
		安全・安心	安全・安心の実感	事故	交通安全性★
					生活安全性★
				災害	個人の備え
					災害時の絆・助け合い
					防災性

※「上位指標」とは、各分野の総合的な実感を把握するための指標を言います。

※「下位指標」とは、各分野のより具体的な実感を把握するための指標を言います。

※★印の指標は、質問文で「孤独を感じますか」「不安を感じますか」「危険を感じますか」など、負の実感を尋ねています。

³ 子育て・教育分野は、18歳未満の子どもがいる方のみを対象とした設問（指標）になります。

図表 2 荒川区民総幸福度（GAH）指標の質問文一覧

分野	No.	指標	質問文
健康・福祉	1	幸福実感	あなたは幸せだと感じますか？
	2	運動の実施	体を動かしたり運動したりすることができていると思いますか？
	3	健康的な食生活	健康的な食生活を送ることができていると感じますか？
	4	体の休息	体を休めることができていると感じますか？
	5	つながり★	孤立感や孤独感を感じますか？
	6	自分の役割	家庭や職場、学校、地域などで、自分の役割があると感じますか？
	7	心の安らぎ	心が安らぐ時間を持つことができていると感じますか？
	8	医療の充実	お住まいの地域に、安心してかかることができる医療機関（病院や薬局など）が充実していると感じますか？
	9	福祉の充実	お住まいの地域では、高齢者や障がい者への福祉が充実していると感じますか？
	10	健康の実感	心身ともに健康的な生活を送ることができていると感じますか？
子育て・教育	11	規則正しい生活習慣	お子さんが規則正しい生活習慣を身につけていると思いますか？
	12	「生きる力」の習得	お子さんが、社会で生活していく上で必要な知識や技能、社会性、体力などを身につけていると思いますか？
	13	親子コミュニケーション	親子の間でコミュニケーションがとれていると感じますか？
	14	家族の理解・協力	あなたのご家族には、子育てに関する理解や協力があると感じますか？
	15	子育て・教育環境の充実	お住まいの地域における子育て・教育に関する事業・サービス・施設など（提供しているのが、民間か行政かを問わず）が充実していると思いますか？
	16	地域の子育てへの理解・協力	お住まいの地域に、子育て家庭に対して理解し、協力する雰囲気があると感じますか？
	17	望む子育てができる環境の充実	自分が望む子育てができるような環境があると感じますか？
	18	子どもの成長の実感	お子さんが健やかに成長していると感じますか？
産業	19	生活の安定★	生活を送るために必要な収入を得ていくことに不安を感じますか？
	20	ワーク・ライフ・バランス	仕事と生活とのバランスが取れていると感じますか？
	21	仕事のやりがい	仕事に、やりがいや充実感を感じますか？
	22	まちの産業	荒川区の企業（お店や町工場など）は元気で活力があると感じますか？
	23	買い物物の利便性	お住まいの地域での買い物物が便利だと思いますか？
	24	まちの魅力	荒川区は、区外から人が訪れたい魅力のあるまちだと思いますか？
	25	生活のゆとり	経済的な不安がなく、買い物などに不便のない生活を送ることができていると感じますか？
環境	26	施設のバリアフリー	お住まいの地域の商業施設や公共施設が、バリアフリーの面から、だれもが使いやすいと思いますか？
	27	心のバリアフリー	お住まいの地域には、困っている人を見かけた時に、声を掛けたり協力したりしやすい雰囲気があると感じますか？
	28	交通利便性	お住まいの地域は交通の便が良いと感じますか？
	29	まちなみの良さ	お住まいの地域のまちなみ（景観・緑など）は良いと感じますか？
	30	周辺環境の快適さ★	お住まいの地域で、生活する上での不快さを感じますか？
	31	持続可能性	あなたは、節電やごみの減量など、地球環境に配慮した生活をしていると思いますか？
	32	生活環境の充実	お住まいの地域が、バリアフリーの状況や交通の便、まちなみの良さ、快適さ等の点から総合して暮らしやすい生活環境であると感じますか？
文化	33	興味・関心事への取組	興味・関心のあることに取り組むことができていると感じますか？
	34	生涯学習環境の充実	生涯にわたって学習できる環境が充実していると感じますか？
	35	地域への愛着	荒川区の文化や特色に愛着や誇りを感じますか？
	36	地域の人との交流の充実	お住まいの地域の方と交流することで充実感が得られていると感じますか？
	37	地域に頼れる人がいる実感	お住まいの地域に頼れる人がいると感じますか？
	38	文化的寛容性	お住まいの地域には、文化や言語が自分と異なる人々を理解しようとする雰囲気があると感じますか？
	39	充実した余暇・文化活動、地域の人とのふれあいの実感	充実した余暇・文化活動や地域の方とのふれあいのある生活が送れていると感じますか？
安全・安心	40	防犯性★	お住まいの地域で、犯罪への不安を感じますか？
	41	交通安全性★	お住まいの地域で、自動車や自転車などの交通事故の危険を感じますか？
	42	生活安全性★	家庭や学校・職場などで、転倒、転落、落下物などの危険を感じますか？
	43	個人の備え	災害（地震・火災・風水害）に対する備えを十分にしている安心感がありますか？
	44	災害時の絆・助け合い	災害時に近隣の人と助け合う関係があると感じますか？
	45	防災性	お住まいの地域は災害に強いと感じますか？
	46	安全・安心の実感	お住まいの地域は犯罪や事故、災害などの点から総合して安全だと感じますか？

I 区民アンケート調査結果の概要—荒川区民の幸福実感—

では、さっそく平成 25 年度と 26 年度の 2 つの区民アンケート調査の結果をみていきましょう。
まずは「あなたは幸せと感じますか？」という幸福実感の結果からみていきます。

回答者全体での幸福実感はどうだったのでしょうか？

「性別」「年代」「区内居住年数」「居住形態」「家族構成」といった、
その人の属性によって幸福実感に変化はあるのでしょうか？

気になる結果は、次のページからです！

区民アンケート調査の概要

調査区域：荒川区全域

調査対象：満 20 歳以上の荒川区民（無作為抽出）

配布数：4,000

調査期間：平成 25 年度区民アンケート調査（以下「25 年度調査」とします。）

平成 25 年 10 月 1 日～平成 25 年 10 月 28 日

平成 26 年度区民アンケート調査（以下「26 年度調査」とします。）

平成 26 年 7 月 8 日～平成 26 年 8 月 5 日

回収数：25 年度調査 1,970、26 年度調査 1,910

回収方法：郵送または電子申請

今回は、平成 25 年度、26 年度の 2 回の区民アンケート調査の結果について、回答者全体での傾向や、性別・年代等の属性ごとの傾向を示しています。社会経済情勢や本人に起きた出来事など、様々な要因により調査の結果が変動する可能性があるため、今後も調査を継続し、経年での変化をみていきます。

■回答の平均実感度の考え方は？

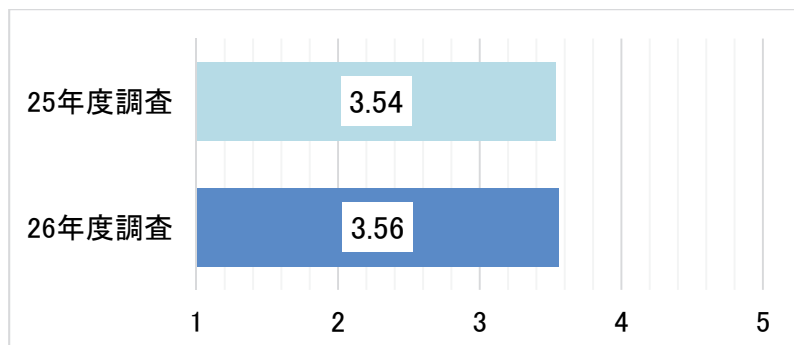
各質問に対する実感度 1 から 5 までの回答について、実感度 1 を 1 点、実感度 2 を 2 点、実感度 3 を 3 点、実感度 4 を 4 点、実感度 5 を 5 点とし、その総和を質問への有効回答数（「わからない」「無回答」は除きます。）で割って算出しています。

ただし、質問文で「孤独を感じますか」「不安を感じますか」「危険を感じますか」など、負の実感を尋ねている「つながり」「生活の安定」「周辺環境の快適さ」「防犯性」「交通安全性」「生活安全性」の各指標は、実感度 1 を 5 点、実感度 2 を 4 点、実感度 4 を 2 点、実感度 5 を 1 点として算出しています。

※なお、本レポートで扱っている各図表の有効回答者数の一覧は 16～17 ページのとおりです。

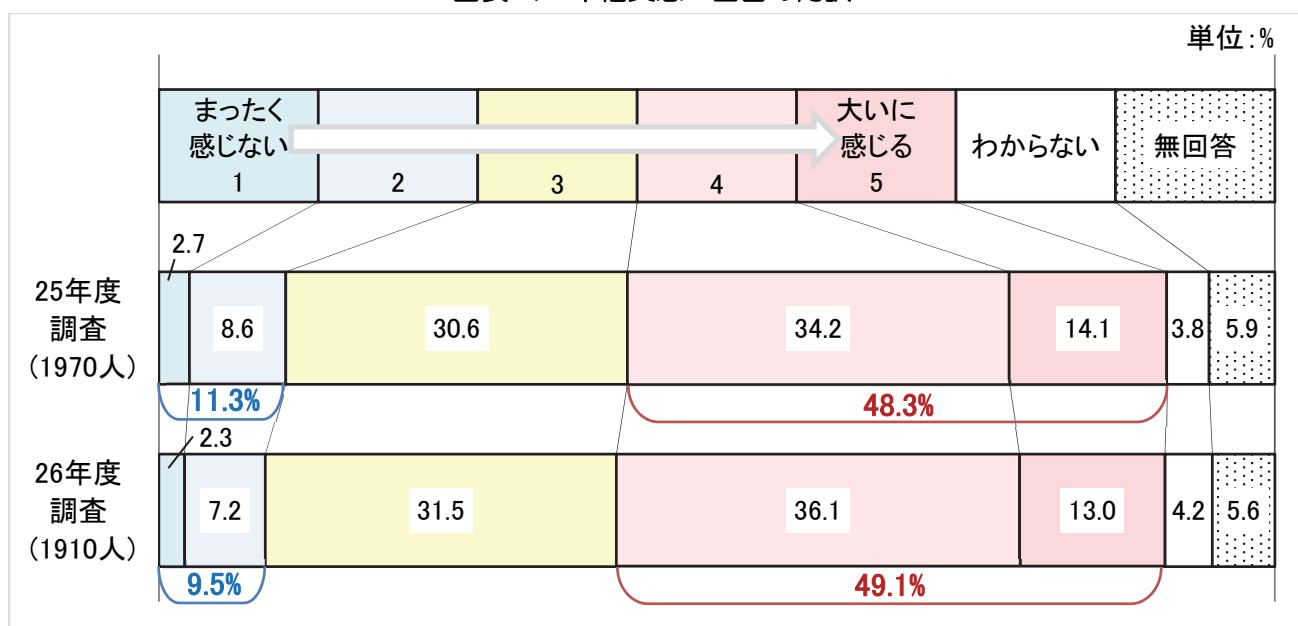
1 全体の幸福実感

図表 3 全体の平均幸福実感度



幸福実感（「あなたは幸せだと感じますか？」）について、回答者全体での平均をみると（図表3）、25年度調査では3.54、26年度調査では3.56となっています。

図表 4 幸福実感 回答の内訳



幸福実感の回答内訳をみると（図表4）、実感度1～5の5段階のうち、「実感度4」と答えた人が最も多いことがわかります（25年度調査では34.2%、26年度調査では36.1%）。

また、実感度1、2を合わせた「幸福を感じない」は25年度調査では11.3%でしたが、26年度調査では9.5%に減少しました（1.8ポイント減）。一方、実感度4、5を合わせた「幸福を感じる」は25年度調査では48.3%でしたが、26年度調査では49.1%に増加しました（0.8ポイント増）。

いろいろなことが
わかってきそうだね！

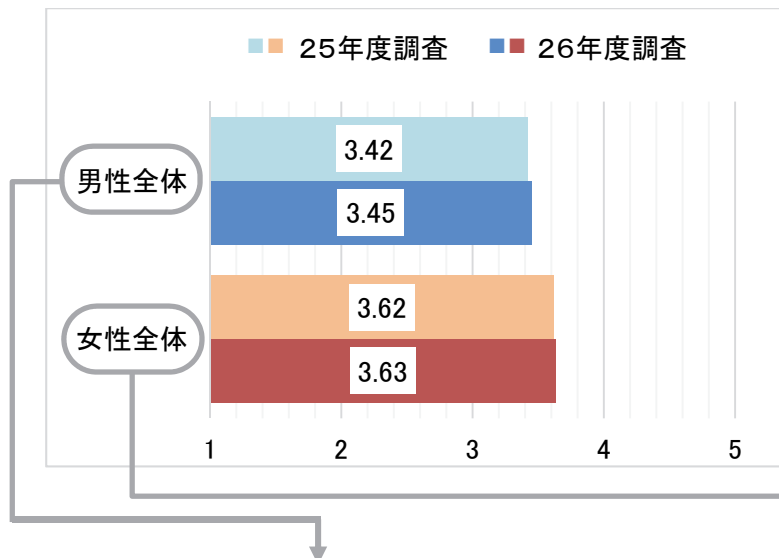


「幸せを感じる」人が
もっともっと増えてい
くといいね！



2 性別・年代別 幸福実感

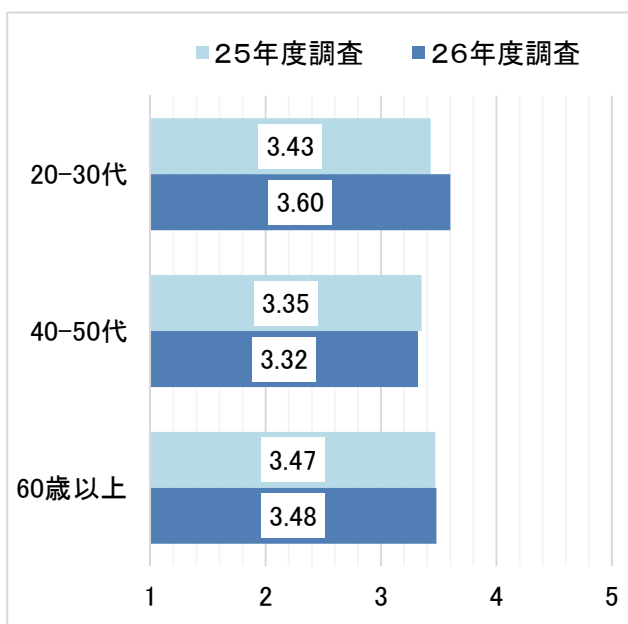
図表 5 性別 平均幸福実感度



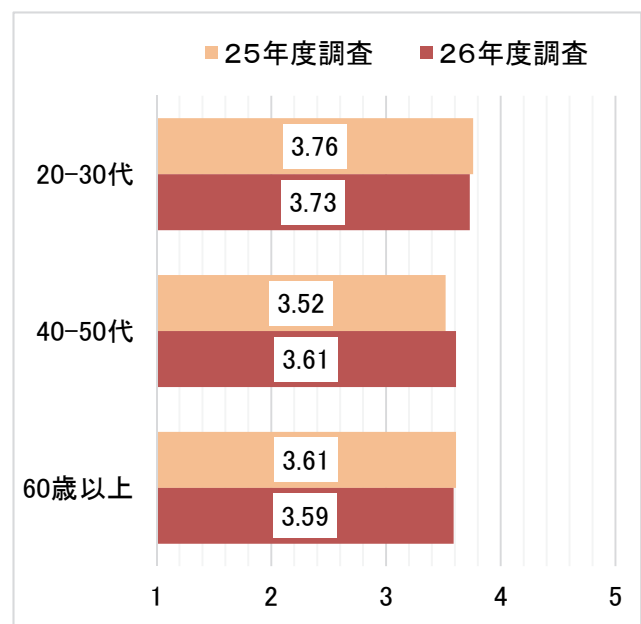
図表5のとおり、男性と女性の幸福実感度の平均をみると、女性の方が、幸福実感が高いことがわかります（25年度調査では0.20ポイント差、26年度調査では0.18ポイント差）。

では、男女をそれぞれ年代別にみると、どのような傾向になっているのでしょうか。図表6、図表7をご覧ください。

図表 6 男性の年代別 平均幸福実感度



図表 7 女性の年代別 平均幸福実感度



男性

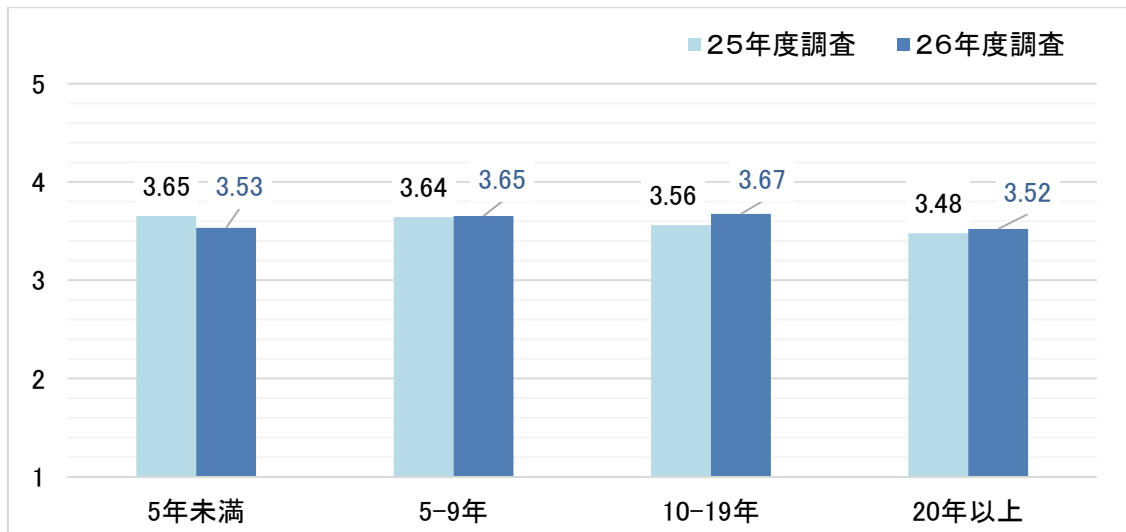
25年度調査、26年度調査ともに「40-50代」の幸福実感が低くなっていることがわかります。また、26年度調査の結果をみると、最も幸福実感の高かった「20-30代」（3.60）と、最も低かった「40-50代」（3.32）の差は、0.28ポイントありました（25年度調査については、最も高かった「60歳以上」（3.47）と最も低かった「40-50代」（3.35）の差は0.12ポイント）。

女性

25年度調査、26年度調査ともに「20-30代」の幸福実感が高くなっていることがわかります。また、26年度調査の結果をみると、最も幸福実感の高かった「20-30代」（3.73）と、最も低かった「60歳以上」（3.59）の差は、0.14ポイントありました（25年度調査については、最も高かった「20-30代」（3.76）と最も低かった「40-50代」（3.52）の差は0.24ポイント）。

3 区内居住年数別 幸福実感

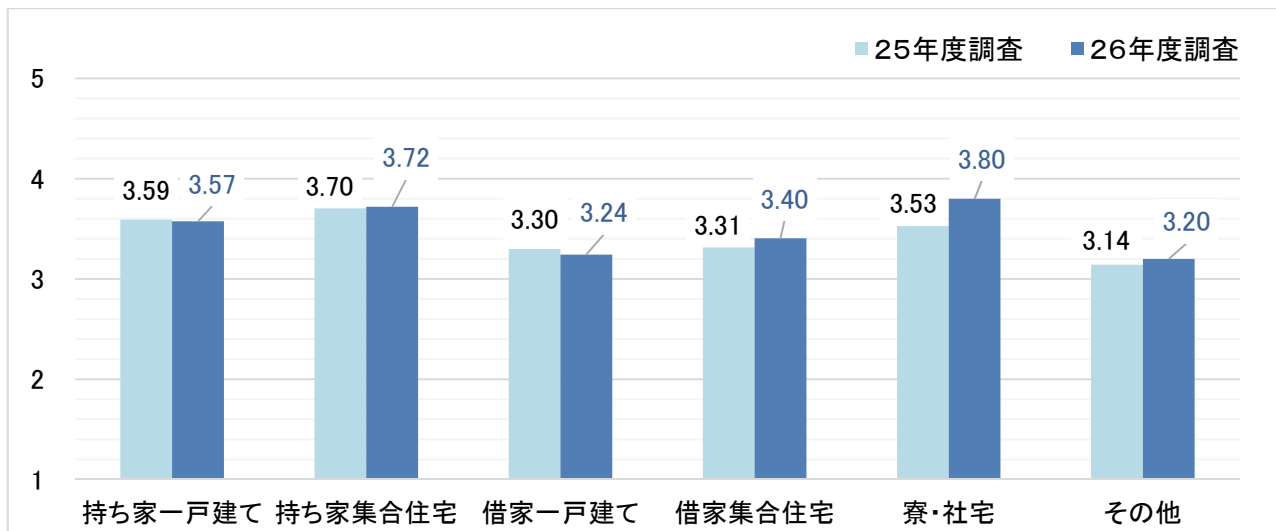
図表 8 区内居住年数別 平均幸福実感度



区内居住年数ごとに幸福実感度の平均をみると(図表 8)、25 年度調査では「5 年未満」(3.65)、次いで「5-9 年」(3.64)、26 年度調査では「10-19 年」(3.67)、次いで「5-9 年」(3.65) の順に幸福実感が高いという結果となりました。最も高い実感度と最も低い実感度との差は、25 年度では 0.17 ポイント、26 年度では 0.15 ポイントありました。

4 居住形態別 幸福実感

図表 9 居住形態別 平均幸福実感度

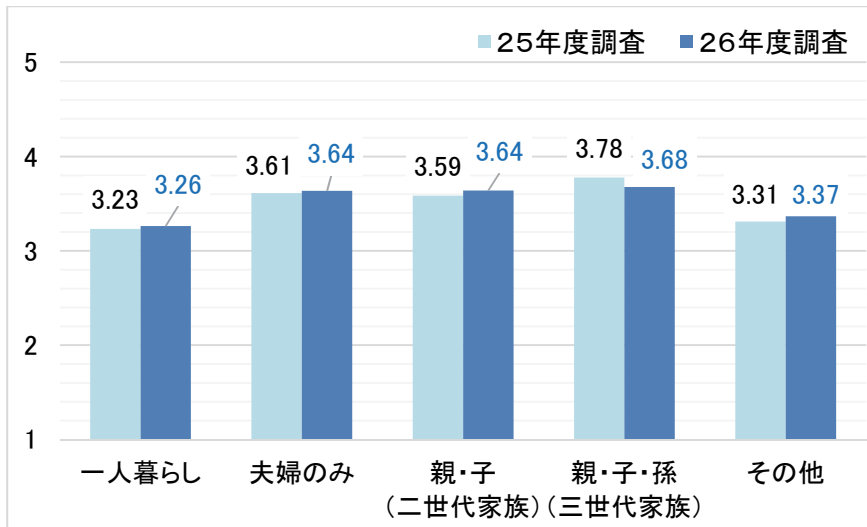


居住形態ごとに幸福実感度の平均をみると(図表 9)、25 年度調査では「持ち家集合住宅」(3.70)、次いで「持ち家一戸建て」(3.59)、26 年度調査では「寮・社宅」(3.80)⁴、次いで「持ち家集合住宅」(3.72) の順に幸福実感が高いという結果となりました。

⁴ 「寮・社宅」居住者は、回答者の数が他の居住形態の回答者と比べて少ないため(25 年度調査 19 人、26 年度調査 15 人)、調査によって数値が大きく変化する可能性があります。

5 家族構成別 幸福実感

図表 10 家族構成別 平均幸福実感度



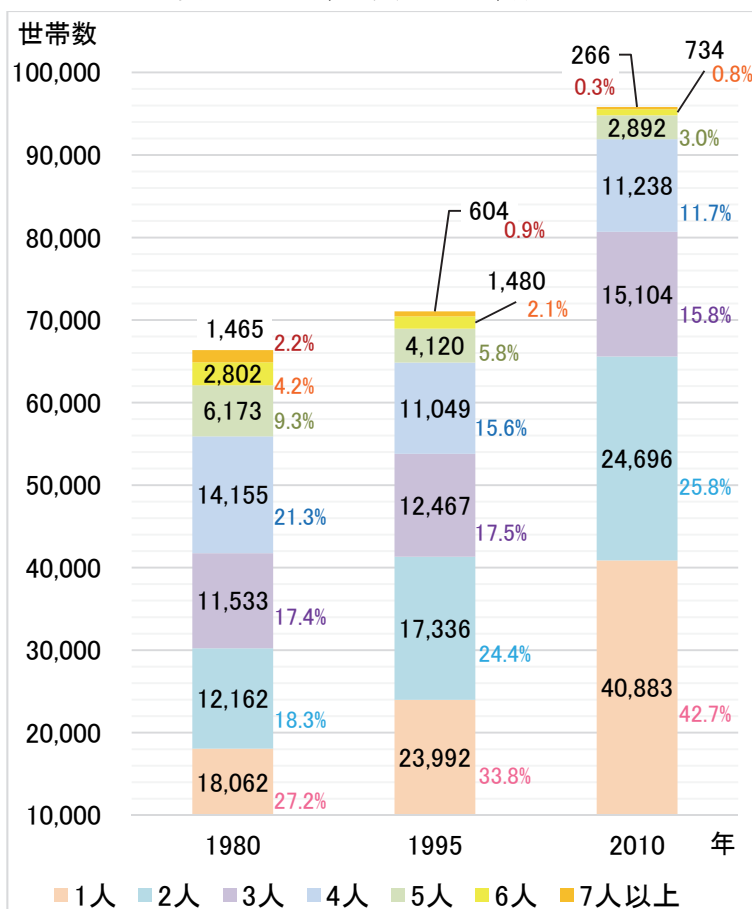
次に、家族構成別に幸福実感度の平均をみると（図表 10）、最も幸福実感が高いのは、25 年度調査、26 年度調査ともに「親・子・孫（三世家族）」（25 年度調査 3.78、26 年度調査 3.68）であり、最も低いのは「一人暮らし」（25 年度調査 3.23、26 年度調査 3.26）でした。

Pick up!

荒川区の世帯の現状を知ろう！



図表 11 世帯人員別 世帯数



最近では、核家族や一人暮らしの人が増えていると言われていますが、荒川区ではどのようなになっているのでしょうか。

図表 11 は、荒川区における世帯人員別の世帯数を表しています。これを見ると、世帯人員が「1 人」「2 人」「3 人」の世帯数はそれぞれ増え続けている一方で、世帯人員が 4 人以上の世帯数の合計は減り続けていることがわかります。

特に、世帯人員が「1 人」の世帯は、1980 年では 18,062 世帯（総世帯数の 27.2%）でしたが、2010 年になると 40,883 世帯（総世帯数の 42.7%）となっており、その増加率の大きさが顕著となっています。

出典：「平成 22 年国勢調査」（総務省統計局）をもとに作成

ここまで、総合的な指標である「幸福実感」に注目して、区民アンケート調査の結果を振り返ってきました。

では、区民の皆さんは具体的に日々の生活のどのようなところに「幸せ」を感じているのでしょうか。

次のページからは、

「健康・福祉」「子育て・教育」「産業」「環境」「文化」「安全・安心」

という6つの分野ごとに、みていきましょう！

コラム 笑顔と長寿の関係

笑顔でいることは、長生きにつながるかも！？

人間は笑顔になると、自然と口角が上がり目尻にシワが寄ります。

1862年、フランスの神経科学者ギヨーム・デュシェンヌは、意識的に口角を上げて作り笑いを浮かべることはできても、目尻にシワが寄るような笑顔を作ることはできないことに気づきました。

目尻にシワが寄るような満面の笑顔は、意識的に真似できない心の底から出た喜びの表現であり、心理学の分野では発見者の名をとって、デュシェンヌ・スマイルと呼ばれています。

一方で口元だけの部分的な笑顔は意識的に作り出すことができるという点でデュシェンヌ・スマイルとは区別され、ノン・デュシェンヌ・スマイルと呼ばれています。

アメリカのウェイン州立大学の研究チームは、メジャーリーグの1952年の選手名鑑に掲載された顔写真を「笑み無し」「部分的な笑み（ノン・デュシェンヌ・スマイル）」「満面の笑み（デュシェンヌ・スマイル）」の3つに分け、2009年までに亡くなった150人の平均寿命を分析しました。

その結果が右の表です。

「笑み無し」の人（63人）と比べると「満面の笑み」を浮かべていた人（23人）は平均で7年も長生きであり、感情的な健康が身体への健康にも良い影響を与えていることがわかります。

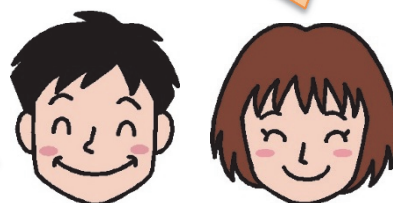
また、「部分的な笑み」の人（64人）でも「笑み無し」の人よりも2.1年長生きしています。たとえ作り笑いであっても、笑顔で前向きに生きることが長生きの秘訣なのかもしれません。

Abel, E. L., & Kruger, M. L. (2010) Smile intensity in photographs predicts longevity. *Psychological Science*, 21 (4), 542-544.

選手名鑑に写る 笑みの度合い	平均寿命	「笑み無し」 との差
「笑み無し」	72.9 歳	—
「部分的な笑み」	75.0 歳	+2.1 歳
「満面の笑み」	79.9 歳	+7.0 歳

笑顔を心がけていると、気持ちもハッピーになってくる気がするんだ

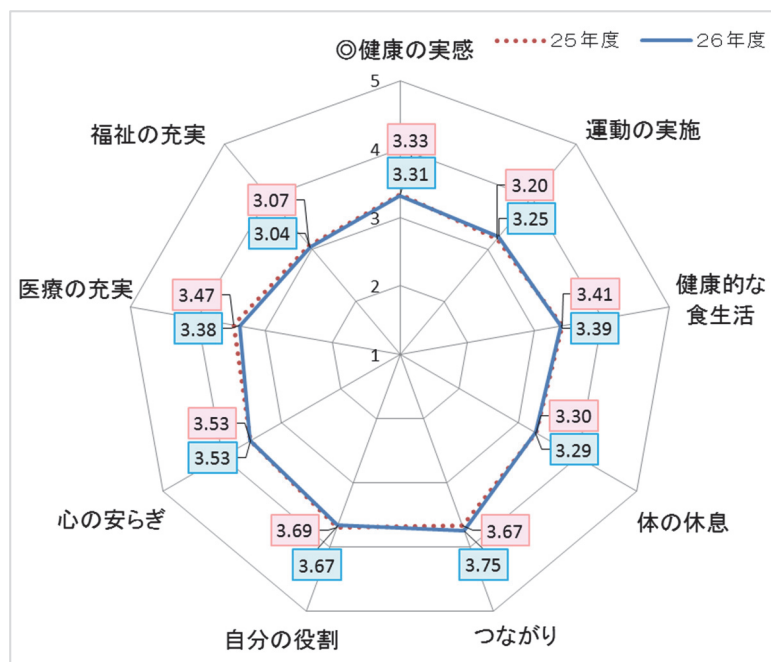
「笑う門には福来る」
っていうものね！



Ⅱ 各分野におけるGAH指標の平均実感度

1 健康・福祉

図表 12 健康・福祉分野の平均実感度



※各分野共通 ◎印：上位指標（説明はP.2をご覧ください）
 〇：25年度調査、□：26年度調査

健康・福祉分野内では、25年度調査、26年度調査ともに、全ての指標で平均実感度が3を超えています。

26年度調査の結果をみると、「つながり」の平均実感度が最も高く（3.75）、次いで「自分の役割」（3.67）、「心の安らぎ」（3.53）となっています。

健康は幸福の基本となるものです。区では「あらかわ満点メニュー」や「荒川ころばん体操」など飲食店や大学などの皆様の協力をいただいたり、糖尿病対策推進事業や自殺予防対策を行う等、幅広く事業を実施しています。

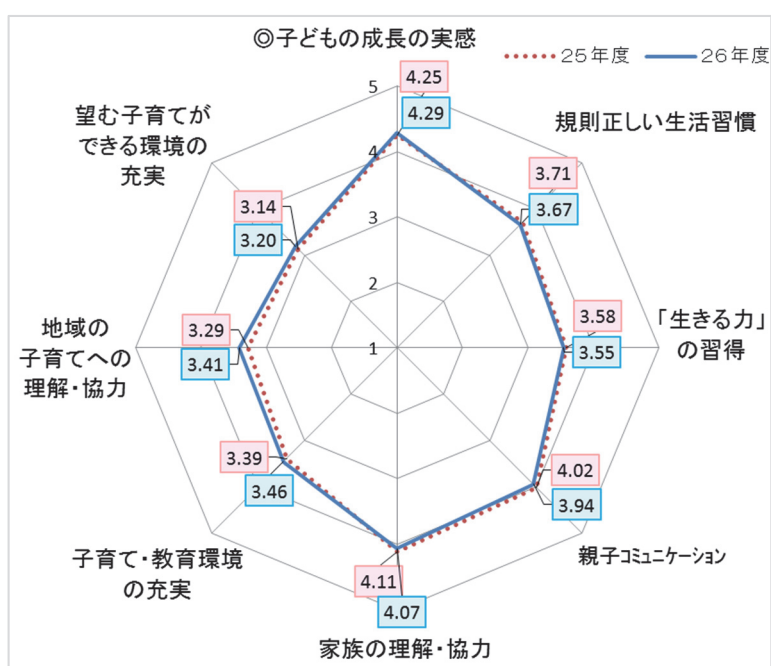
2 子育て・教育

子育て・教育分野内においても25年度調査、26年度調査ともに全ての指標で平均実感度が3を超えています。

上位指標である「子どもの成長の実感」は、25年度調査（4.25）、26年度調査（4.29）いずれも、全46の指標の中で、最も高い実感度となっています。その他の指標では特に、「親子コミュニケーション」や「家族の理解・協力」といった家族関係の指標の平均実感度が高くなっています。

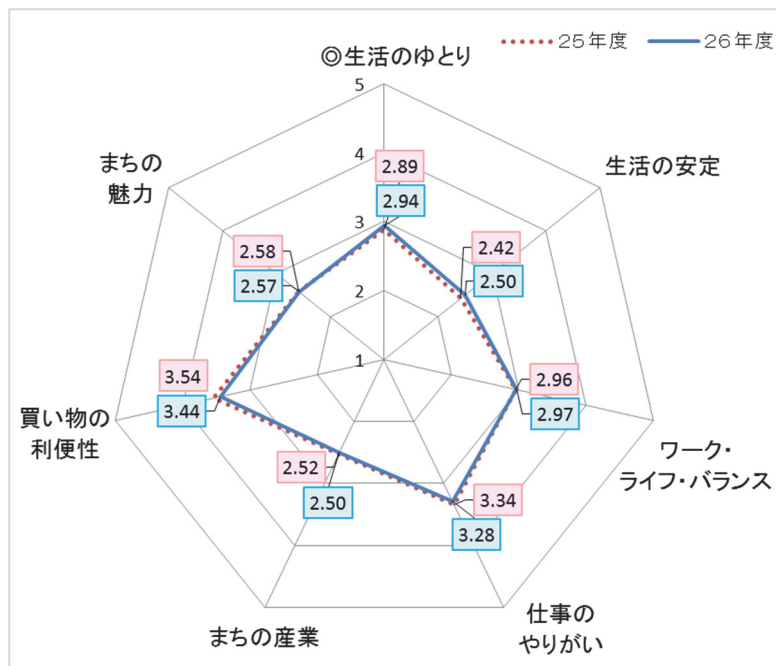
区では、保育定員の拡大等による子育て環境の整備や、区立小中学校でのタブレットPCの活用等による充実した教育政策など、あらゆる面から子どもの健やかな成長を支援しています。

表 13 子育て・教育分野の平均実感度



3 産業

図表 14 産業分野の平均実感度



産業分野内では、25年度調査、26年度調査ともに「買い物の利便性」(26年度調査では 3.44) の平均実感度が最も高く、次いで「仕事のやりがい」(3.28) が高くなっています。

一方で、「生活の安定」(2.50)、「まちの産業」(2.50)、「まちの魅力」(2.57) の平均実感度は低くなっていることがわかります。

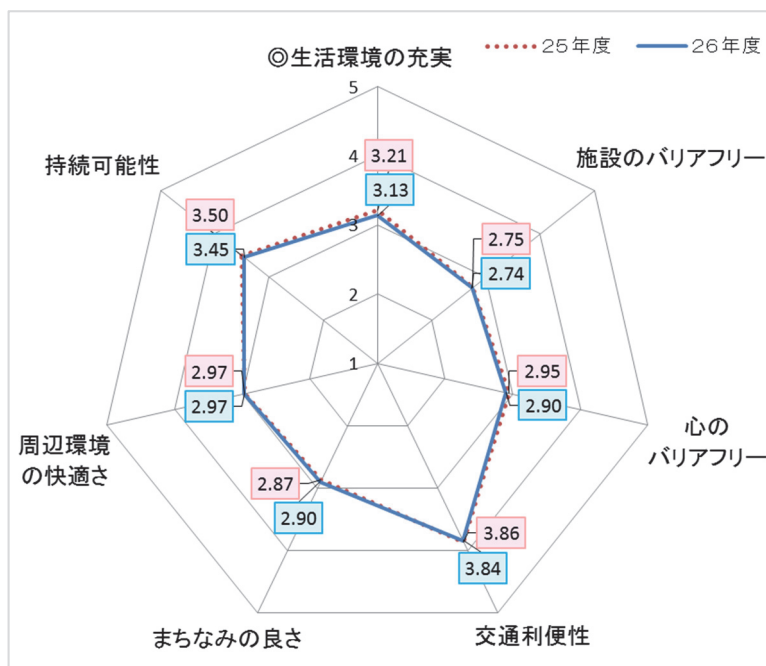
就労支援課の設置や他機関との連携による雇用の促進、相談事業や産学連携の推進等による区内事業者への支援、様々な資源を活用したまちの魅力の発信など、区の産業をさらに活性化させるための取り組みをしています。

4 環境

環境分野内では、25年度調査、26年度調査ともに「交通利便性」の平均実感度が最も高くなっており(26年度調査では 3.84)、都心や国際空港までのアクセスの良さや、都電荒川線やコミュニティバス「さくら」など区内の公共交通機関の充実による移動のしやすさも、良い影響を与えていると思われます。一方で、平均実感度が最も低いのは「施設のバリアフリー」(2.74) となっています。

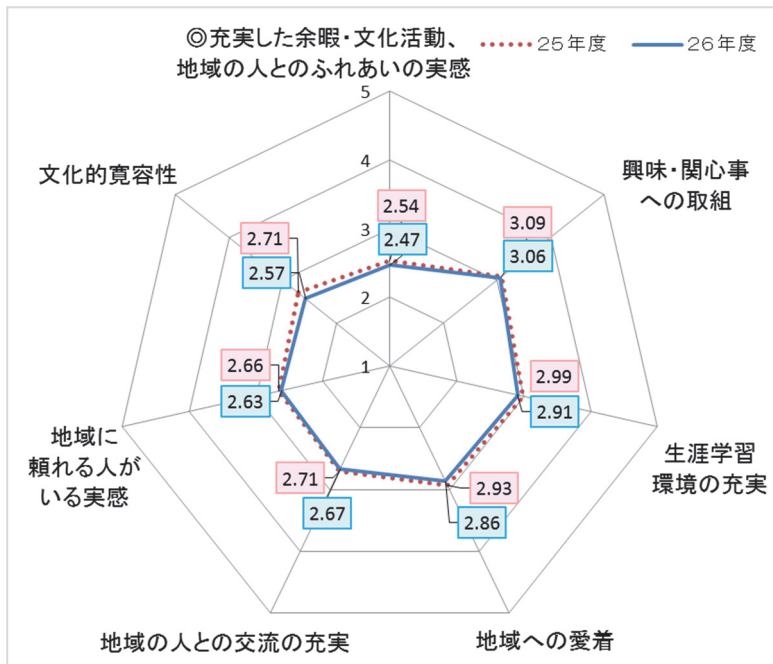
区では、高齢者、障がい者、妊産婦等誰もが安全、安心、快適に移動・利用できる空間を整備するためバリアフリー重点整備地区を設け、施設整備と心のバリアフリーの両面から積極的に取り組みを進めています。

図表 15 環境分野の平均実感度



5 文化

図表 16 文化分野の平均実感度



文化分野内では、平均実感度が3を下回る指標が多くなっています。なかでも上位指標である「充実した余暇・文化活動、地域のひととのふれあいの実感」（26年度調査では2.47）や文化や言語の異なる人々への理解の実感度を聞いた「文化的寛容性」（2.57）の平均実感度が低くなっています。

2020年の東京でのオリンピック・パラリンピックの開催決定を契機として、一層の異文化等への理解を促す取り組みを進めます。また、あらゆる世代が利用できる地域の交流の拠点として、図書館、吉村昭記念文学館、子ども施設等の機能を融合させた「ゆいの森あらかわ」を整備しています。

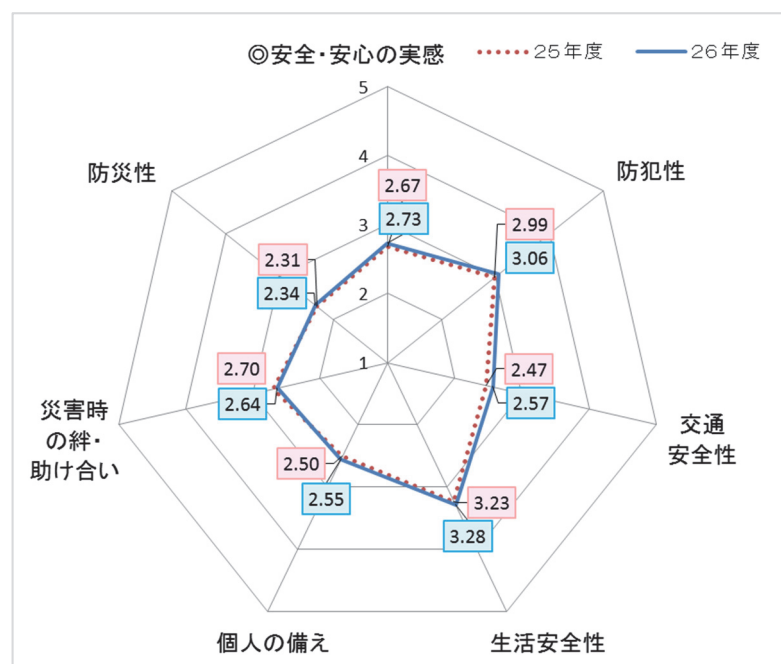
6 安全・安心

安全・安心分野内では、26年度調査においては「防犯性」（3.06）と「生活安全性」（3.28）の平均実感度が3を超えています。

一方で、「防災性」（2.34）をはじめ、災害に対する「個人の備え」（2.55）や「交通安全性」（2.57）の平均実感度は低くなっています。

区では、不燃化特区制度の活用や永久水利の整備などにより、災害に強い街づくりを進めています。また、「交通安全性」についても、スタントマンが交通事故を実演する交通安全教室等を通じて、子ども達に交通ルールの大切さを学んでもらう事業等を行っています。

図表 17 安全・安心分野の平均実感度



Ⅲ 更なる幸福実感向上のために

1 地域のちから

これまで平成 25 年度および 26 年度の区民アンケート調査の結果をみることで、区民の皆さんが日ごろどのようなところに幸せや不幸・不安を感じているのかみてきました。

区民の皆さんの幸福実感向上には、何よりも、区に関わる全ての人や団体が力を合わせて地域をより良くしていくことが大事ではないでしょうか。その点、下町情緒あふれる荒川区は隣近所との結びつきが強く、声をかけ合ったり、互いに助け合ったりするなど、地域を思いやる風土があることが大きな強みです。こうした地域のちからが日々の暮らしの安心や安全につながっています。

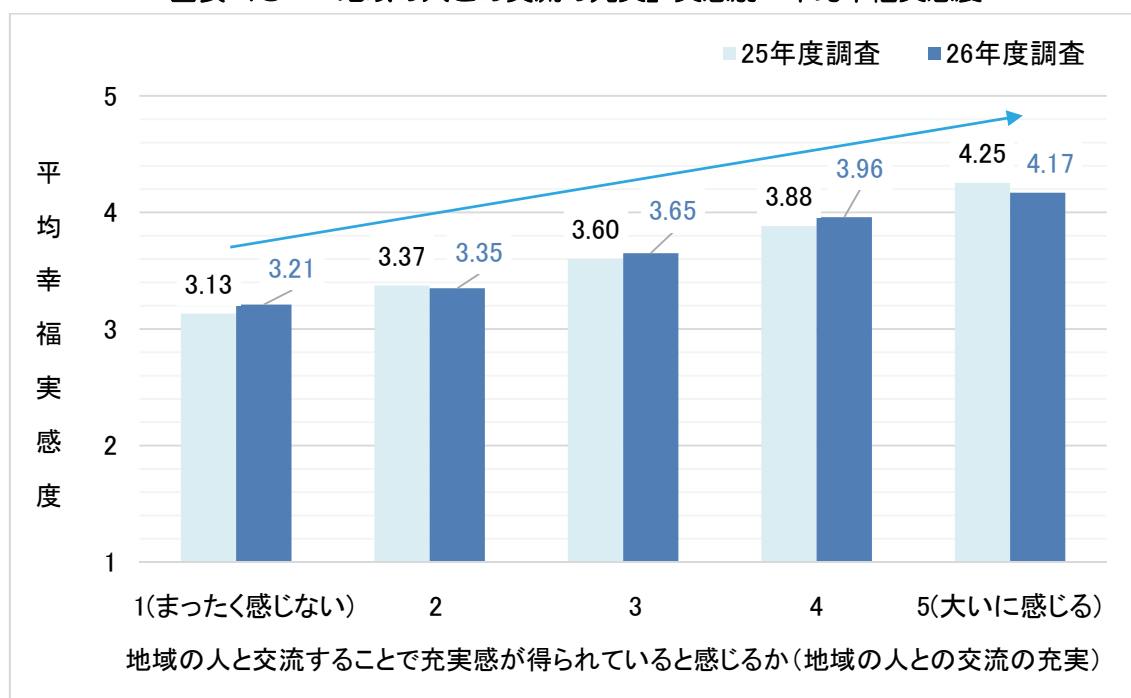
**区民アンケート調査の結果から、
地域とのつながりと「幸福実感」との関係を見てみましょう！**

どんなことがわかったのでしょうか？

例えば、「地域の人との交流の充実」の実感別に幸福実感度の平均をみると（図表 18）、地域の人と交流できていると思っている人ほど幸福だと思っている傾向にあることがわかります。

地域とのつながりから生まれる思いやりや助け合いといった分かち合いの意識が、地域のちからの源です。地域のちからを高めていくことが、誰もが幸せを実感できる地域社会の実現へとつながっていくと考えられます。

図表 18 「地域の人との交流の充実」実感別 平均幸福実感度



2 区取り組み

荒川区は「幸福実感都市あらかわ」を目指して、様々な事業を進めています。以下では、荒川区の平成 27 年度における主要事業をご紹介します。

幸福増進予算

～安全安心や未来への活力を高めるために～

(※荒川区「平成 27 年度予算主要事業」リーフレットをもとに作成)

●犯罪から守るために

オレオレ詐欺や還付金詐欺等の特殊詐欺の被害にあいやすい高齢者を守るため、荒川区の特性である地域力を生かした犯罪防止活動を展開します。

加えて、児童のさらなる安全を確保するため、小学校の通学路に防犯カメラを設置する等、犯罪から区民を守るための取り組みを進めます。



【特殊詐欺啓発グッズ】

●災害から守るために

隅田川の水や地下水などの水源を活用した永久水利施設のさらなる整備、一人暮らし高齢者等への電磁調理器購入費用の補助、危険老朽空き家解体費用の100%助成等、より一層燃えない・燃え広がらない街づくりを最優先で進めます。

加えて、防災アプリの導入、防災運動会、発災時に防災・減災活動に貢献できる「防災ジュニアリーダー」の育成等、地域防災力の向上を図ります。



【レスキュー部の活動】

●安心して暮らすために

区内 8 か所目の地域包括支援センターを南千住地域に新たに設置することにより、高齢者の支援の充実を図ります。

加えて、障がい者が荒川区で安心して暮らし続けられるように、グループホームの設置支援、成年後見制度の利用促進を行います。また、親なき後を見据え、自立した生活を目指しその将来像を描く「ライフプラン」の作成を支援するための個別相談や講習会を行うなど、障がい者の支援のより一層の充実を図ります。



【ひざ痛予防教室】

●子どもの未来のために

全小中学校で実施している補充学習「あらかわ寺子屋」の充実、区有地を活用した私立幼稚園の整備等、教育環境の充実を図ります。

加えて、保育定員の拡大（約250人）、にこにこスクール実施校の拡大、育児不安等を抱える在宅育児家庭へのボランティア派遣、地域の力を生かした子どもの居場所づくり等、子育て環境の充実を図ります。



【あらかわ寺子屋】

●働く人を応援するために

区内事業者の生産性向上や安全性の確保など経営基盤の改善を図るため、7S（整理・整頓・清潔・清掃・躰・省エネ・サービス）活動や、小規模事業者の設備投資等を支援します。

加えて、子育て中の女性の就職準備をサポートする相談窓口の設置や、女性の働きやすい職場環境整備のための設備導入支援等、女性の社会進出を支援します。



【専門家派遣事業】

●地域文化を高めるために

子どもから高齢者まで、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境を整備するとともに、才能あるジュニアアスリートへの支援を強化し、2020年に開催されるオリンピック・パラリンピックに向けての気運を高め、一層のスポーツ振興を図ります。

加えて、松尾芭蕉の「奥の細道矢立初めの地」である「千住あらかわ」を区内外に強く発信し「子ども俳句相撲大会」の開催等により俳句文化の裾野を広げ、俳句による観光振興を図ります。



【荒川リバーサイドマラソン】

区民アンケート調査の結果について気になることや疑問、今後分析レポートで取り上げてほしいテーマなど、皆さんの声を、お気軽に荒川区自治総合研究所にお寄せください！

例

- ・若い人と地域の関係ってどうなんだろう？
- ・自分と同世代の人たちの回答を詳しく知りたい！

～次号もお楽しみに～

今回は、区民アンケートの分析結果をさらに詳しく紹介し、幸福実感向上のためにできることを考えていきたいと思います！

区民アンケート調査 各図表の有効回答者数一覧

※平均実感度の算出にあたっては、「わからない」や「無回答」は除いています。

■図表 3 全体の平均幸福実感度

25 年度調査	26 年度調査
1,779 人	1,722 人

■図表 4 幸福実感 回答の内訳

選択肢	25 年度調査	26 年度調査
幸福実感 1	54 人	44 人
幸福実感 2	170 人	138 人
幸福実感 3	603 人	601 人
幸福実感 4	674 人	690 人
幸福実感 5	278 人	249 人
わからない	75 人	81 人
無回答	116 人	107 人

■図表 5 性別 平均幸福実感度（年代不明者含む）

25 年度調査		26 年度調査	
男性	女性	男性	女性
703 人	1,040 人	701 人	998 人

■図表 6 男性の年代別 平均幸福実感度

選択肢	25 年度調査	26 年度調査
20-30 代	150 人	150 人
40-50 代	223 人	241 人
60 歳以上	328 人	308 人

■図表 7 女性の年代別 平均幸福実感度

選択肢	25 年度調査	26 年度調査
20-30 代	296 人	264 人
40-50 代	359 人	337 人
60 歳以上	384 人	395 人

■図表 8 区内居住年数別 平均幸福実感度

選択肢	25 年度調査	26 年度調査
5 年未満	269 人	266 人
5-9 年	212 人	202 人
10-19 年	244 人	249 人
20 年以上	1,016 人	984 人

■図表 9 居住形態別 平均幸福実感度

選択肢	25 年度調査	26 年度調査
持ち家一戸建て	704 人	660 人
持ち家集合住宅	521 人	538 人
借家一戸建て	47 人	66 人
借家集合住宅	427 人	368 人
寮・社宅	19 人	15 人
その他	28 人	55 人

■図表 10 家族構成別 平均幸福実感度

選択肢	25 年度調査	26 年度調査
一人暮らし	284 人	270 人
夫婦のみ	411 人	372 人
親・子（二世家族）	859 人	822 人
親・子・孫（三世家族）	121 人	102 人
その他	71 人	112 人

■図表 12 健康・福祉分野の平均実感度（◎印の指標は、分野内の上位指標(2 ページ参照)を示します）

指標	25 年度調査	26 年度調査
◎健康の実感	1,905 人	1,843 人
運動の実施	1,922 人	1,853 人
健康的な食生活	1,913 人	1,855 人
体の休息	1,909 人	1,849 人
つながり	1,884 人	1,826 人

指標	25 年度調査	26 年度調査
自分の役割	1,849 人	1,793 人
心の安らぎ	1,897 人	1,842 人
医療の充実	1,884 人	1,804 人
福祉の充実	1,483 人	1,441 人

■図表 13 子育て・教育分野の平均実感度（◎印の指標は、分野内の上位指標(2 ページ参照)を示します)

指標	25 年度調査	26 年度調査	指標	25 年度調査	26 年度調査
◎子どもの成長の実感	424 人	403 人	家族の理解・協力	426 人	400 人
規則正しい生活習慣	416 人	380 人	子育て・教育環境の充実	411 人	380 人
「生きる力」の習得	394 人	363 人	地域の子育てへの理解・協力	407 人	376 人
親子コミュニケーション	423 人	401 人	望む子育てができる環境の充実	414 人	381 人

■図表 14 産業分野の平均実感度（◎印の指標は、分野内の上位指標(2 ページ参照)を示します)

指標	25 年度調査	26 年度調査	指標	25 年度調査	26 年度調査
◎生活のゆとり	1,880 人	1,808 人	まちの産業	1,589 人	1,536 人
生活の安定	1,861 人	1,785 人	買い物の利便性	1,888 人	1,838 人
ワーク・ライフ・バランス	1,757 人	1,715 人	まちの魅力	1,714 人	1,689 人
仕事のやりがい	1,759 人	1,721 人			

■図表 15 環境分野の平均実感度（◎印の指標は、分野内の上位指標(2 ページ参照)を示します)

指標	25 年度調査	26 年度調査	指標	25 年度調査	26 年度調査
◎生活環境の充実	1,852 人	1,784 人	まちなみの良さ	1,895 人	1,830 人
施設のバリアフリー	1,616 人	1,569 人	周辺環境の快適さ	1,892 人	1,832 人
心のバリアフリー	1,756 人	1,696 人	持続可能性	1,893 人	1,830 人
交通利便性	1,923 人	1,862 人			

■図表 16 文化分野の平均実感度（◎印の指標は、分野内の上位指標(2 ページ参照)を示します)

指標	25 年度調査	26 年度調査	指標	25 年度調査	26 年度調査
◎充実した余暇・文化活動、地域の人とのふれあいの実感	1,761 人	1,668 人	地域への愛着	1,720 人	1,652 人
興味・関心事への取組	1,809 人	1,760 人	地域の人との交流の充実	1,764 人	1,683 人
生涯学習環境の充実	1,701 人	1,653 人	地域に頼れる人がいる実感	1,784 人	1,701 人
			文化的寛容性	1,532 人	1,456 人

■図表 17 安全・安心分野の平均実感度（◎印の指標は、分野内の上位指標(2 ページ参照)を示します)

指標	25 年度調査	26 年度調査	指標	25 年度調査	26 年度調査
◎安全・安心の実感	1,829 人	1,749 人	個人の備え	1,855 人	1,773 人
防犯性	1,878 人	1,821 人	災害時の絆・助け合い	1,806 人	1,743 人
交通安全性	1,901 人	1,843 人	防災性	1,752 人	1,651 人
生活安全性	1,787 人	1,735 人			

■図表 18 「地域の人との交流の充実」実感別 平均幸福実感度

地域の人との交流の充実	25 年度調査	26 年度調査
実感度 1(まったく感じない)	234 人	224 人
実感度 2	435 人	455 人
実感度 3	614 人	527 人
実感度 4	274 人	269 人
実感度 5(大いに感じる)	67 人	78 人

荒川区民総幸福度（GAH）レポートに関わる分析・執筆

荒川区自治総合研究所研究員	佐藤 宏嗣
荒川区自治総合研究所研究員	海老原 麻美
荒川区自治総合研究所研究員	河野 志穂
荒川区自治総合研究所研究員	山田 庄太郎
荒川区総務企画部区政調査専門員	二神 常爾

荒川区民総幸福度（GAH）レポート Vol.1
～GAH指標を用いた区民アンケート調査結果の分析～

平成 27 年 3 月

発行：公益財団法人荒川区自治総合研究所（RILAC）
Research Institute for Local government by Arakawa City

住 所	〒116-0002 東京都荒川区荒川 2-11-1
電話番号	03-3802-4861
ファックス	03-3802-2592
ホームページ	http://www.rilac.or.jp/